

Vol.5

男

女のつむぎつむぎ

オリンピックに寄せて

女人禁制のオリンピック

ごく最近のことです。

先月十三日から二十九日まで十七日間、近代オリンピック発祥の地アテネにおいて、二十一世紀最初の夏季オリンピックが開催されました。

古代オリンピックは「女人禁制」で、一八九六年に第一回オリンピックがアテネで開催された時は、スポーツが女性に普及していなかったことから女性の参加種目はありませんでした。初めて女性が参加したのは第二回パリ大会で、男性の十三競技に対して女性はずかしく一競技でした。

その後も「激しいスポーツは女性に向かない」とされた時代が長く続き、オリンピック（夏季）で女性の競技数が増え、一九七六年のモントリオール大会からで、男女の競技数がほぼ同じになったのは

日本女子選手の活躍

このような経緯があります。近年日本の女子選手はオリンピックで大活躍しています。戦前の日本のメダリストのほとんどは男性で、戦後もその傾向は変わりませんでした。一九九二年のバルセロナ大会以降、女性のメダリストは急増し、前回のシドニー大会では、七割以上が女性でした。この夏のアテネ大会でも、大会十一日目を終えて、金メダル9個、銀メダル2個、銅メダル4個を獲得する活躍を見せています。

また、今大会の日本選手団の男女別の選手数も男子百四十一人に対して、女子百七十一人と初めて女子選手の数が男子選手を上回りました。

教育夢発信

土岐津中学校

選択音楽(和太鼓の学習)



本校では、一昨年より選択音楽の授業に和太鼓を取り入れています。講師には、土岐津町にお住まいの安藤勝利先生をお招きしています。安藤先生は、名古屋市中で演奏活動（こしやうたぬき）をされているほか、市内では鼓衆（こしやうたぬき）座を開き、地元の皆さんに太鼓の指導をされています。大変お忙しい中、本年度は、水曜日に二年生一時間、火曜日に三年生二時間、土岐津公民館図書室で、指導していただいています。和太鼓に初めて触れる生徒たちがほとんどで、初めはバチの握り方も分からないところからはじめますが、二月には、校内音楽祭でサンホール（サンホール）のステージに立って演奏を披露するまでに上達します。



昨年度の音楽祭では、「八丈島太鼓」を演奏しました。その先輩たちの演奏する姿を観て、「来年は和太鼓を習いたい。そして、自分もステージに立って演奏したい」という夢を持ち、今年は各学年定員限度の二十数名が履修しています。

先生には、太鼓を叩く技術だけでなく、太鼓を通して自分の気持ちを表現する喜びや、互いの音を聞きながら仲間と演奏する喜びを教えてくださいたいです。生徒たちの感想には、「四舞打ちなどは、みんなが協力してやるので、できた時はうれしい。また、二舞打ちや三舞打ちの時

には、『よいさ』の声を入れ、一緒にやっている気になって楽しくなる」とありました。

本校の学習基盤である協同学習がここでも展開されています。